名誉教授だより

氏名のローマ字綴りのこと

広島大学名誉教授 ❖ 奥 田 九一郎

ローマ字名を変えたのは

先般アメリカのある専門誌に広島大学歯学部時代に行った研究の一部を総説としてまとめて発表した。ところでその総説に，私は自分の名をKyu-Ichiro Okudaと綴り，略名をK. -I. Okudaとした。別冊を知人に贈ったところ，ローマ字名をなぜ変えたのかという問い合わせが何人からか寄せられた。

一人ひとりに返事を出してもよいのだが，このことは日本人全体の問題でもあるので，ここにその理由を記して皆さんの意見を聞きたいと思う。

私の考えた表記方法

従来私は，ローマ字ではKyuichiro Okudaと綴り，略名はK. Okudaとしてきた。[middle name (Christian name)を持たない日本人はこのように綴るのが習慣であったし，こう綴るように教えられてきた。]

しかし，この著者名でMedicus IndexやChemical Abstractなどの二次資料を検索すると（索引は名の頭文字と苗字で分類されている），同じ綴りの名前がたくさん出てきて，それらをいちいち調べるためには重い本（これらの2次資料は一般に分厚くて重い。）を何度も出し入れしなければならず，たいへん時間と労力のいる仕事であることが分かった。

だからといって，コンピュータを使って著者名でサーチしてみると，関係のない論文が多数引っかかってきて，それらを一々ファイルを開いてチェックすることは，今度はたいへんな時間のロスであることが分かった。しかし，名の頭文字が2ないしは3ある著者の場合は重複がきわめて少なく，こんな苦労をする必要がないことが分かった。

そこで，他の研究者に迷惑をかけないためには，名の方の頭文字を2ないしは3にするのがよいのではないか，と考えた次第である。日本の科学者（科学者以外でも同じだが）が皆このようにすれば，どんなに関係者の時間や労力の無駄が省かれるか知れない。

適切な自分のローマ字名を選択するべきだ

著者名は一度発表してからは変えない方がよい。したがって，最初の論文を欧文で発表するときに，よく考えて発表するべきである。[私自身は啓蒙のためにと思って変えたのであるが，今ではKyu-Ichi-Ro (K-I-R. Okuda)とすればよかったと思っている（名の各語の頭文字を大文字で表す）。]

名が，こ(子)とかお(夫，男，雄)などのように普遍的に多い語の場合は，例えば，良子をY-s-K.，幸夫をY-k-O.というように，名の最初の字の綴り内の一文字を小文字で挿入すればどうだろうか。従来どおりだと，鈴木良子も鈴木幸夫もY. Suzukiになってしまい，略名からいずれかの人を特定することはできない。しかしこの綴り方だと，Y-s-K. SuzukiおよびY-k-O. Suzukiとなり区別できる。

日本人の活動が国際的に広がっていっている今日，日本人は従来のローマ字綴りの習慣をやめて，世界の人々にとって便利な綴り方に変えるべきではなかろうか。幸い，氏名のローマ字綴りは戸籍には記載されないから，自由に選ぶことができる。

これから欧文論文を書こうとする人は，よく考えて，適切な自分のローマ字名を選択するべきではないかと考えている。

（おくだ・くいちろう）

V 付記

いこう。行動を起こすことで何か変わるはずである。それこそA氏が言わんとするところでもあるのだから。

東広島市の皆さん、読んでくださってありがとうございます。私は、この論争で、大学当局の自分の責任を棚上げにしたこのような言い方に憤りを覚え筆を執りましたが、この論争に触れる以上、「何もない」という引用が多く気分を害されたことと思います。誠に申し訳ありません。しかし、大学内の問題以上の問題になってしまったため、「広大フォーラム」の場を借り、広大生の一人として私の偽らざる気持ちを書いたつもりです。

これからも今まで以上に広大に温かいご支援や目を持っていただけたらとてもうれしいです。

＊この原稿を書くにあたり次の文章を参考にした。

「広大フォーラム」二十六期八号十六頁「アホにならないで」A氏

「広大フォーラム」二十七期一号三十一頁「『西条は何も無い所』か」B教授

「教職員・学生の生活環境について答申」昭和五十一年十一月 広島大学統合移転・改革に関する基本計画委員会・生活環境専門委員会

＊なるべく文中に差別用語をださないよう注意したつもりですが、注意できていなかった部分があったらこの場を借りて謝罪します。

A氏の「アホ」「ハンディキャップ」「毎日ボーッとして過ごすのはアホのすること」またB氏の連発する「無神経」という言葉は気になりました。

私も最近注意しはじめたことで大きなことは言えませんが、公のメディアでは日常生活以上に敏感に気をつけていきたいと思いますし、そのことを知っていただきたいと思います。

また、拙論を展開した以上、さまざまな方からの反論や賛同の意見は受け付けたいと思います。

（たにみつ・あきひこ）